

科目ナンバリング		U-LAS02 20032 LJ37							
授業科目名 <英訳>		言語比較論II Comparative Language Studies II				担当者所属 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 河崎 靖	
群	人文・社会科学科目群		分野(分類)		芸術・文学・言語(各論)		使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位		週コマ数	1コマ		授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・ 開講期	2025・前期		曜時限	金4		配当学年	2回生以上	対象学生	全学向
(総合人間学部の学生は、全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。)									
[授業の概要・目的]									
言語学という分野が「ことば」をどのように捉えているかについて概観する。言語学の各レベル（音・文法・意味・語彙等）にわたって考察を行う。									
[到達目標]									
言語体系の普遍的な法則性を探るべく考究を進める。印欧諸言語を対象に、ことばの普遍性・体系性を明らかにすることを目標とし、ことばの諸相を観察することによって、多様性の背後に見え隠れする言語の普遍的特質を追求する。言語体系の法則性・言語変化のメカニズムを探り、そのあり方を解明する力を養成することを目指す。									
[授業計画と内容]									
世界の諸言語を視野に収めながら、ことばの普遍性・体系性を明らかにすることを目標とする。一般言語学の諸分野（音論、形態論、統語論等の諸領域）を対象に、言語体系の普遍的な法則性を探るべく、通時的・共時的考究を進める（第1回～第5回）。比較言語学的方法と併せて、言語の理論的考究による種々の成果を踏まえ、言語学の方法論上の問題についても考察する（第6回～第10回）。言語類型論なアプローチ等により、ことばの諸相を考究することによって、多様性の背後に見え隠れする言語の普遍的特質を追求する（第11回～第14回）。フィードバック（第15回）。									
1. 言語学とは 2. 言語の音（音声学・音韻論） 3. 語の構造（形態論） 4. 文の構造（統語論・テキスト言語学） 5. 語・文の意味（意味論） 6. 発話の意味（語用論） 7. 言語の変化（歴史言語学） 8. 言語の比較（比較言語学） 9. 言語の比較（言語類型論） 10.言語のバリエーション（社会言語学） 11.世界の言語と日本語 12. 言語習得 13. 文字論 14. 言語研究の歴史 15. フィードバック									
-----言語比較論II(2)へ続く↓↓↓-----									

言語比較論II(2)

[履修要件]

特になし。

[成績評価の方法・観点]

成績評価は、授業への参加度（50％）・中レポート（25％）・小レポート（25％）に基づく。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に紹介する文献に目を通し理解を深めること。

[その他（オフィスアワー等）]

定員の上限は、教室定員に戻る。

[主要授業科目（学部・学科名）]